

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	21 / 1975 / 13-19
タイトル	青森市野内川流域内のラン植物
著者名	加賀谷康人

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市野内川流域内のラン植物

3年 加賀谷 康人

青森県に於けるラン科植物の分布については、今日多くの先輩方の手によって明らかにされているが、小地域を考えた場合、まだ研究の余地があるように思われる。

筆者は1974年から1975年に渡って、青森市北東部に位置する野内川流域内に於けるラン科植物の分布を調べるため、当地で採集を行った。結果として、下折紙沢、唐川、平沢、鎌取山などから15種（これらの種は、総て同定を完了し、標本化されたものである。その他写真撮影されたものや栽培中のものについては後述する。）を記録することが出来た。この15種及び後述されているものは、総て青森県既記録種ではあるが、稀なものとしては、アオチドリ (*Coeloglossum viride*) とイヌマムカゴ (*Tulotis Inumae*) を挙げる事が出来る。同定は上記のアオチドリとイヌマムカゴを除いて、筆者が主に北村他著「原色日本植物図鑑草本編〔下〕」(保鮮社)を参考にして行った。

尚、この調査結果の発表にあたり、調査法や標本製作法、その他について教多く御教示していただき、またアオチドリとイヌマムカゴ同定をもして下さった県立郷土館、原子一男氏には、心から感謝いたします。また、筆者に代って意欲的な採集活動をしてくれた後輩諸君、並びに多方面に渡って協力して下さった石沢尚史氏にも厚くお礼申し上げます。

採集記録と考察

記載形式

1. 記載されている種は、総て1974年及び1975年に青高生物部員によって採集され、かつ標本が現存するものである。
2. 各種については、採集記録、生育環境、群落状態の順にこれらを記載し、更に所見、考察を〔備考〕として付け加えた。
3. 種の記列、和名、及び学名は北村他著「原色日本植物図鑑草本編〔下〕」に従った。
4. 栽培中のもの或いは写真撮影されたものなど標本を得ていないものについては、このように記した。

1. ノビネチドリ *Gymnadenia conopsea*
1975 6 14 下折紙沢(三重ノ滝付近) 福士広司
〔生育環境〕
日当たりが良く、枯木・落木ともに豊かである。付近はヒバを主体として林。
1975 6 15 下折紙沢(三重ノ滝付近) 出河守康

〔生育環境〕

日当たりが良く、草本の貧弱な崩土上。付近はブナを主体とした林。

〔備考〕

本種は、平沢、唐川沢の適湿地でもよく見うけられ、稀なものではない。

花の色には個体差がある。

2 イイヌマムカゴ⁴ *Tulotis Inumae*
1975 7 25 下折紙沢(入口付近) 加賀谷康人

〔生育環境〕

ヒバ、ブナ、サワグルミ等の混交林内の適湿地。林内は、亜高木としてミズナラ、ホオノキ、サワシバ、低木としてハイイヌカヤ、ヒバ、ブナが見られ、草本類も豊富である。

〔群落状態〕

筆者が採集した時は、20m四方程の適湿地にミゾシダに混って5株が点在していた。

〔備考〕

本種は、青森県では稀なものであり、過去に一例、弘前市苗代山(1952年)での記録があるのみであった。

筆者の報告により、県立郷土館原子一男氏は、同年7月31日、筆者が採集した産地に於いて、更に数株採集された。このことから、当地には10株ほどが自生していたものと思われる。

同属のトンボソウ(*Tulotis ussuriensis*)とは外観はかなり異なるが、確実な区別点は距の長さである。

3 アオチドリ *Coeloglossum viride*
1975 5 5 鍵取山 加賀谷康人

〔生育環境〕

鍵取山南斜面のミズナラを主体とする二次林内の湿地。(現在、伐採されてこの林は残っていない。)草本は、大型セリ科植物、フキ、イラクサ類が目立つ。

〔群落状態〕

筆者が採集した花の付いた3株の他に、付近には、花は付いていないが本種と思われる個体も含めて10株程が群生していた。

〔備考〕

本種も、青森県では稀なものであり、既産地としては、奥入瀬(1939年)弘前久渡寺(1970年)が知られている。原子一男氏に拠れば、本種は湿った地を好み、あまり暗い林下には見られないとのことである。

4. オオヤマサギソウ *Platanthera sachalinensis*
1975 8 1 平沢 石井 徹

〔生育環境〕

沢に沿った、林道付近の適湿地。付近はセバと広葉樹の混交林。

〔備考〕

本種も含めて、ツレサギソウ属(*Platanthera*)或いはトンボソウ属(*Tulotia*)の種は皆よく似ており、確実な同定をする為には花を見る必要がある。特に、花茎が伸びていない個体(1〜2枚の葉だけが付いている。)では、種名を定めることはできない。

5. ギンラン *Cephalanthera erecta*
1975 6 14 下折紙沢(三重ノ滝付近) 福士広司

〔生育環境〕

ヒバ林。草本層は比較的豊富である。

1975 6 15 松崎沢 福士広司

〔生育環境〕

陰湿なヒバ林。

〔備考〕

本種は個体数の多いラン科植物の一種で、普通ミズナラ林やアカマツ林のような二次林でよく見られる。

同属のササバギンランは、葉や子房にある短毛状凸起で本種と区別されるが、我々は、まだ野内川流域で採集していない。

6. エゾスズラン(アオスズラン) *Epipactis papillosa*
1975 6 22 下折紙沢(入口付近) 福士広司

〔生育環境〕

ヒバ林。下草は比較的豊富である。

1975 7 25 下折紙沢(入口付近)

〔生育環境〕

ブナを主体とした二次林。林床は乾燥しており、草本層にはヤブレガサ、タチツボスミレ、キバナイカリソウ等が見られる。

〔備考〕

上記の2つの採集地は互いに隣接しており、付近では2記録以外にも採集されている。

保育社の原色日本植物図鑑草本編〔下〕の本種についての文章には「亜高山の林内に生え

る多年草」とあるが、筆者らの採集地の海拔高度は約200mである。

あまり目立たない種である。

7. アカボノシュスラン *Goodyera Maximowicziana*

1974 5 13 下折紙沢 加賀谷康人

〔生育環境〕

ヒバ林。低木層にはハイヌガヤが目立つ。

〔備考〕

同属のミヤマウスラより湿った所を好むようである。

8. ミヤマウスラ *Goodyera Schiechtendaliana*

1974 4 28 鋸取山 加賀谷康人

〔生育環境〕

サワシバ、ブナ、カエデ類の多層に次林。低木が豊富で林床は乾燥している。

〔群落状態〕

乾燥した林下に一様に散在していた。

1975 6 22 下折紙沢 橋士広司

〔生育環境〕

ミスナラ、ブナを主体とした二次林。林下には較的明るく、ホンモンジスゲ類が見られる。

〔群落状態〕

数十株が群生。

〔備考〕

一般に乾燥した明るい林下に見られる。

葉の形態には個体差が見られ、白色網斑のつきかた、縁のちぢれの有無などさまざまである。

9. クモキリソウ *Liparis Kumokiri*

1975 6 29 上折紙沢、平沢間の砂防ダム付近 加賀谷康人

〔生育環境〕

北向きの、オオバヤナギ、アカソ、スゲ類、スギゴケ類が生えている削土上。

〔群落状態〕

コケの群落上に4株が見られた。

〔備考〕

参考までに、1975年6月3日、筆者が教群の本種を発見した青森市幸畑の植生を挙げてみる。

調査月日—9月25日'75 調査場所—青森市幸畑（スギ人工林）

高木層 高さ10m 樹種スギ 被率80%

亜高木層 低木層共に無し

草本層 草丈0.5m タマブキ、タチツボスミレ、クサソテリ、チヂミザサ、クモキリソウ、その他、それぞれ点在。

傾斜—平坦な地である。

土壌—スギの枯葉が厚く堆積している。

○クモキリソウ対木の中でも比較的明るい所に10～30株の群落を成して生育していた。

記録者—加賀谷康人

葉の縁は必ずしも細かくちぢれているとは限らない。（1975年6月3日幸畑で採集した個体より）

10 ジガバチソウ *Liparis Krameri*
1975 6 29 唐川沢と平沢の間 加賀谷康人

〔生育環境〕

林道脇の、木陰になっている湿った岩の切れ上。付近はヒバと多種の広葉樹との混交林。

〔群落状態〕

7～8株が岩上に散在。

〔備考〕

前種に比べて一般に小型であるが、花の形以外では区別できない。

クモキリソウ属（*Liparis*）の偽球には実生による小さな苗がよく附着している。

11 スズムシソウ *Liparis Makinoana*
1975 6 29 唐川沢の入口付近 加賀谷康人

〔生育環境〕

ヒバ林内の適湿地。低木層にはハイイヌかやが多い。

〔備考〕

前記のクモキリソウ、ジガバチソウに比べて、葉には幾分老沢があり、色は緑色を帯びる。

12 サイハイラン *Cremastra appendiculata*
1975 6 22 下折紙沢 福士広司

〔生育環境〕

林道脇の大型セリ植物，フキ，クサソテツ等の見られる明るい適湿地。林道は沢に沿っており，付近はトチノキ，サワグルミの林である。

〔備考〕

本種は最も普通なラン科植物の一種で，往々大きな群落を作る。
乾燥した所ではあまり見かけない。

13 コケイラン *Oreorchis patens*
1975 6 14 下折紙沢(入口付近) 福士広司

〔生育環境〕

適湿なヒバ林。低木層にはハイイヌかヤ，オオバクロモジが目立ち，草本は貧弱で，コタニワタリ，サカゲイノデ等のシダ類がわずかに見られる。

〔群落状態〕

2株。

〔備考〕

湿った所によく見られる。

14 イチヨウラン *Dactylostaalix ringens*
1975 5 5 鍵取山 加賀谷康人

〔生育環境〕

サワシバ，カエデ類の多い比較的明るい林。低木は豊富で，草本層にはジュンシ，ツクバネソウ，ホンモンジスゲ類が見られる。

1975 6 15 下折紙沢 福士広司

〔生育環境〕

陰湿なヒバ林。

〔備考〕

原一男氏に拠れば，本種は林内より林側に多く見られるとのことである。

15 シュンラン *Cymbidium Goeringii*
1975 6 22 下折紙沢(入口付近) 福士広司

〔生育環境〕

乾燥したヒバ林内。

〔備考〕

上の記録はヒバ林内で採集されたものだが，一般には乾燥した広葉樹林内でよく見られる。

時に一本の花茎に二個の花をつける。

以上15種が記録された。

ひきつづいて写真撮影されたもの、栽培中のもの、その他を紹介する。

○ オニノヤガラ *Gastrodia elata*

1975 7 13 平沢

平沢に於いて、福士広司氏が撮影した。データは、薄暗く多湿な路ぎわ、ササが回りに生えていた。

○ ネジバナ *Spiranthes sinensis*

1975 8 1 唐川沢

唐川沢の道端の日当たりの良い裸地で筆者が採集したが、筆者の不始末のため紛失した。

○ エビネ *Calanthe discolor*

1974 8 6 下折紙沢 加賀谷康人

1975 8 2 榎ハギ沢入口付近 加賀谷康人

2例とも花が付いていなかったもので、現在開花させるため、筆者が栽培している。葉の形、株の大きさからほぼエビネに間違いないと見ている。

文 献

- | | | | |
|-------|-------------------|------|------|
| 北村昭郎他 | ：原色日本植物図鑑 草本編〔下〕 | 1964 | 保育社 |
| 牧野富太郎 | ：牧野日本植物図鑑（増補版） | 1960 | 北隆館 |
| 正宗巖敬 | ：日本の植物 Ⅱ8巻 単子葉植物Ⅱ | 1969 | 高陽書院 |

正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
16	3	Goodyera Maximowicziana	Goodyera Maximowiziana
16	17	林下には較的明るく	林下は比較的明るく
18	19	シュン' ン	シュンラン
19	4	Gastrodia elata	Gastrodia eleta